



社会を知る、自己の考えを見つめる、考えを伝える

～ 国際平和スピーチコンテストに向けての学びから ～

校長 岩澤 尚彦

校庭の木々や草花を見ていると、猛暑の中でも、根をしっかりと張り、大空に向けてすくすくと成長していく姿に勇気が湧いてきます。本校の子どもたちが、たくましく成長してく姿にも重ね合わせてしまいます。今週は、学校に戻ってきた子どもたちの笑顔から、夏休みの充足感と学校生活が再開されるという喜びが感じられました。

夏季休業期間においては、水泳教室を各学年において実施しました。感染防止対策を第一に考えての実施となりましたが、保護者の皆様のご理解とご協力をいただき実施することができました。心より感謝申し上げます。

横浜市では、毎年、よこはま子ども国際平和スピーチコンテストを実施しています。各学校、各区での予選会で代表になった児童が、市の本選会に臨みます。本校の6年1組 松井 亜音さんが、本校のスピーチコンテストで代表者になり、青葉区の予選会で、素晴らしいスピーチを行い、見事に横浜市の本選会に出場することができました。青葉区30校の予選会では、私も審査員として参加しておりましたが、会場の参会者の心に響くスピーチができました。残念ながら、横浜市の本選会では、市長賞を得ることはできませんでしたが、松井さんのよさを十分に発揮できたスピーチになっていたと思います。今後は、「よこはま子ども国際平和プログラム子ども実行委員」として、横浜市から委嘱され1年間ユニセフ協会の諸活動への協力や国際平和募金の呼びかけ、国際機関等の事務所と連携し、国際平和にかかわる学習会を実施していきます。学校として、松井さんの今後の活動を応援していきたいと思っています。

〇〇らしさにとらわれず

松井 亜音

「あなたは『女』なんだから『僕』って言うのやめなさい！」
私は母からそう言われました。どうして女だから『僕』や『俺』と言ってはいけないのでしょうか。私は一年くらい前までずっと『僕』と書いていました。ですがある日突然母から指摘をされました。なぜだろうと思ったのですが素直にそれを受け入れませんでした。それから『私』というようになったのですが最近『俺』と言うようになり、また、『あなたは女の子だから』、『女の子なのに』、『女の子らしくなさい』、なぜ『女』に縛られないといけないのでしょうか。私は女の子が男装をしたり、『僕』や『俺』と言ったりしているのとても素敵だし、一人一人のいい個性だと思うのですが、それをよく思わない人はたくさんいると思います。

皆さんは普段生活をしているときジェンダー平等について考えたことはありませんか。私は、SDGsについて調べているときジェンダー平等について初めて知りました。私の性別は女ですが、同じ性別なのに全く違う生活をしている人がいることにとても驚きました。例えば、世界に目を向けると私が十分間遊んでいる間に、約百人の女の子が暴力や性的搾取の被害に遭っています。私が毎日当たり前のように行っている学校に、『女』という理由で行けない女の子がたくさんいます。そこで私は思いました。『どうして性別が違うだけで酷い仕打ちを受けるのだろう。』私は、『僕』子で何が悪いんですか。』というインターネット小説を読みました。この物語は、主人公の女の子が自分のことを『僕』と言いたいのに、いじめられないようにするために『僕』ではなく、『私』と言おうとするお話です。この中で、『女の子で『僕』や『俺』と言ったらいじめられやすい』という文がありました。私はそんな差別的な考えを変えたいと思います。

そこで、ジェンダー平等を実現させるために私たちができることは、人の名前を呼ぶときに、『〇〇ちゃん』、『〇〇くん』と呼ぶのではなく、『〇〇さん』と呼び方を変えて男女平等に扱うこと。そして、一人一人の個性を尊重し、お互いを認め合うことが大切だと考えます。そのような取り組みを一人一人が意識することで、『〇〇らしさ』の概念にとらわれず、一人一人が自分らしく生きることができそうです。最近では自分の制服を選ぶ学校があったり、いろんな色のランドセルがあったりします。それによって一人一人が自分らしく輝いて生活ができると私は思います。『男だから』、『女だから』というイメージを押し付けられて、好きなものや得意なことを制限されてしまうのはおかしい！皆さんもそのような考えをもち、ジェンダーによる差別や偏見、不平等をなくすために一人一人の意識をこの横浜から変えていきましょう！

このスピーチコンテストに向けての取組は、昨年度から6年生のカリキュラムに位置づけて学習しています。一人一人がテーマである国際平和及びSDGsについて認識し、思考し表現することをねらいに学習します。導入の最初の1時間目は、私、校長自ら教室に出向き、世界の現状や課題を投げかけ、子どもたちに問題意識をもつことができるようにし、じっくり調べ、じっくり考えてスピーチできるようにしています。子どもたちはコンテストを目指しますが、大切なのは、この機会に一人一人の思考力や判断力、書く力、話す力を能力として身に付けてほしい意図があります。また、これから生きる子どもたちにとって、日本、世界が抱える様々な課題を乗り越えていくことができるような意識をもってもらいたいと思っています。このような学習を本校の社会に開かれた教育課程に位置づけ、持続的に取り組んでまいります。